

岡山県国際理解教育研究会 大会報告ご挨拶

第13回研究大会を終えて

2005.11.16 於 まなび広場にいみ

大会当日は、好天気、紅葉がすばらしく、たいへん美しい新見の山々でした。古くから教育の町といわれている新見市で第13回岡山県国際理解教育研究大会が、「まなび広場」で開かれました。

新見市長石垣正夫様を初め、新見市教育委員会学校教育課長松尾和博様、福武教育振興財団の赤松康弘様のご臨席を賜りました。ご来賓を代表して新見市長石垣正夫様からご挨拶をいただきました。市政への取り組みと学校教育への施策についてお話になりました。新見市が積極的に中国南陽市と姉妹縁組をされ、平和・友好・親善の交流をされていることもお伺いしました。丁度この時期に、信陽市からの訪問団を受け入れ、交流をされているところでした。

今大会の講演は、中華人民共和国大阪総領事館領事の游衣明先生にお願いしました。中国の教育事情について述べられました。日本の教育制度とは異なることも学びました。游衣明先生の流暢な日本語によって、お話を聞き入ることができました。中国における学校教育の都市と地方との格差など日本とはまた違った問題もあるようでした。中国における学校教育の改革充実は、すばらしいものがあり、中でも義務教育の就学率は日本と同じ程度になり、教育内容などの改革は、日本よりも進んでいるところもあるようでした。一方私達は、新しい教員評価システム、地域の学校としてのカルチャースクール、三位一体改革の中での学校教育の改革などと、子ども達の実態や環境が変化しており、それらに対応しながら、奮闘努力しているのが現状でしょう。今後、中国と日本は経済のみでなく、教育も互いに交流し合いながら国際理解教育を進めることも必要であると感じました。游衣明先生にはたいへんお忙しい中にもかかわらず、ご講演をしていただき、ありがとうございました。

昼食時には、派遣希望者の相談コーナーを設け、また世界のあちらこちらで勤務された先生方の展示品コーナーもあり、柔らかい雰囲気の中で大会をすることができました。

午後からは、3名の帰国者の発表がありました。鳥居先生「多民族国家マレーシア」、満先生「南アフリカのグループフルーツ」、田中先生「ポーランドの文化や歴史を生かした教育活動」の教育実践についての報告がありました。また、全国海外子女教育・国際理解教育研究協議会副会長の明神洋先生のワークショップ「多文化共生をめざして」も勉強しました。参加者は意欲的な研修ができていました。

旧高梁教育事務所管内の会員の皆様には、この大会が開催されるにあたり、準備や折衝などたいへんお世話になりました。また、各部の今大会役員としての活動、ご苦労様でした。

